

(様式 3 号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 原田 昌範

〔題名〕

日本のへき地における遠隔医療と在宅看取り

〔要旨〕

地理的格差は終末期ケアの質に影響を与える。在宅終末期ケアに必要な医療サービスを調査し、在宅看取りの意向との関連性を検証した。遠隔医療がへき地における在宅看取りを促進する可能性があるという仮説を検証することを目的とした。

山口県周南市の指定された離島へき地に居住する 20 歳以上の住民 6,382 人を対象に、横断調査を実施した。調査参加者の選定には層別無作為抽出法を採用し、3,767 人に自記式質問票を郵送した。在宅終末期ケアに必要な医療サービス（遠隔医療、訪問診療、訪問看護、ヘルパーによる在宅身体介護、ヘルパーによる在宅生活支援、デイサービス）を評価した。多変量ロジスティック回帰分析を行い、どの医療サービスが在宅看取りの意向と独立して関連しているかを検証した。

3,767 人の参加者のうち、1,884 人 (50.0%) が回答し、1,451 人が分析に含まれた。全体では、608 名 (41.9%) が男性、1,166 名 (80.3%) が 60 歳以上、733 名

(50.5%) が在宅看取りを希望した。在宅終末期ケアに必要な医療サービスの中で、医師による訪問診療が最も多く選択された回答 (776 名 [53.5%]) であったのに対し、遠隔医療を選択した参加者はわずか 193 名 (13.3%) であった。すべての測定変数を調整後、遠隔医療 (調整 OR, 1.41 [95% CI, 1.01-1.98], $p = 0.045$) と医師による訪問診療 (調整 OR, 1.50 [95% CI, 1.19-1.90], $p < 0.001$) は、在宅看取りを希望する意向と独立して関連していた。

これらの結果は、在宅看取りには医師が提供するサービスが必要である可能性を強調している。遠隔医療と従来の在宅医療を統合することで、終末期ケアの質が向上し、へき地における在宅看取りの促進が期待される。

学位論文審査の結果の要旨

令和 8年 2月 20日

報告番号	医博乙第 1117 号	氏名	原田 昌範
論文審査担当者	主査教授	浅井 義之	
	副査教授	長谷川 俊史	
	副査教授	田邊 剛	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) 日本のへき地における遠隔医療と在宅看取り			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) Telemedicine and Willingness to Die at Home in Rural and Remote Areas in Japan (日本のへき地における遠隔医療と在宅看取り) 掲載雑誌名 Telemedicine Reports 第6巻 第1号 P.309~316 (2025年9月掲載) 著者 (全員を記載) Masanori Harada, Ryusuke Ae, Takao Kojo, Hiroya Masuda, Minoru Kibata, Hossain Mahbub, and Tsuyoshi Tanabe			
(論文審査の要旨)			
<p>【背景】 地理的格差は終末期ケアの質に影響を与える。在宅終末期ケアに必要な医療サービスを調査し、在宅看取りの意向との関連性を検証した。遠隔医療がへき地における在宅看取りを促進する可能性があるという仮説を検証することを目的とした。</p> <p>【方法】 山口県周南市の指定された離島へき地に居住する20歳以上の住民6,382人を対象に、横断調査を実施した。調査参加者の選定には層別無作為抽出法を採用し、3,767人に自記式質問票を郵送した。在宅終末期ケアに必要な医療サービス(遠隔医療、訪問診療、訪問看護、ヘルパーによる在宅身体介護、ヘルパーによる在宅生活支援、デイサービス)を評価した。多変量ロジスティック回帰分析を行い、どの医療サービスが在宅看取りの意向と独立して関連しているかを検証した。</p> <p>【結果】 3,767人の参加者のうち、1,884人(50.0%)が回答し、1,451人が分析に含まれた。全体では、608名(41.9%)が男性、1,166名(80.3%)が60歳以上、733名(50.5%)が在宅看取りを希望した。在宅終末期ケアに必要な医療サービスの中で、医師による訪問診療が最も多く選択された回答(776名[53.5%])であったのに対し、遠隔医療を選択した参加者はわずか193名(13.3%)であった。すべての測定変数を調整後、遠隔医療(調整OR, 1.41 [95%CI, 1.01-1.98], $p = 0.045$)と医師による訪問診療(調整OR, 1.50 [95%CI, 1.19-1.90], $p < 0.001$)は、在宅看取りを希望する意向と独立して関連していた。</p> <p>【結論】 これらの結果は、在宅看取りには医師が提供するサービスが必要である可能性を強調している。遠隔医療と従来の在宅医療を統合することで、終末期ケアの質が向上し、へき地における在宅看取りの促進が期待される。</p> <p>本研究は、日本のへき地において、医師による遠隔医療は在宅看取りの意向と正の相関関係を示し、従来の訪問診療に遠隔医療を組み合わせることは、地域包括ケアに効果的な手段となる可能性があることを示した論文である。よって、学位論文として十分な価値があるものと認められた。</p>			
備考 審査の要旨は800字以内とすること。			